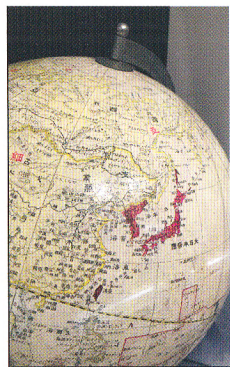


人吉海軍航空基地の歴史

History Wall of Hitoyoshi Naval Aviation

太平洋戦争への序章となった1937(昭和12)年の日中戦争から人吉海軍航空隊の発足・基地建設を経て、様々な目的の変遷を遂げた基地の歴史を、駐留した3つの隊ごとに1945(昭和20)年の終戦まで、時系列でご紹介します。



1922~23年頃製作の日本製の地球儀

ヴェルサイユ条約(1922年)による日本の南洋諸島委任統治の表記があり、イギリスによるパレスチナ委任統治(1923年)の表記がないことから、1922年から1923年に制作された地球儀と考えられます。島津製作所製。

寄贈：満下昌美氏(湯前町)

人吉温泉 桃李温泉 季の杜 石庭内 高木惣吉記念館



第二次世界大戦時、密命を受け終戦工作(戦争を早期に終わらせるための工作)に身を呈した、人吉出身の高木惣吉の遺品等を展示した記念館。

「本当の豊かさとは?」「平和とは?」を考えさせられる資料の数々が展示されています。

- 住所: 熊本県人吉市矢黒町1970-5 ■館長 川越郁子
- 開館日: 土日11:00~16:00(臨時休館日もありますので、事前にお電話でご確認ください)
- 問い合わせ: 0966-24-5522(桃李温泉 季の杜 石庭内、高木惣吉記念館)

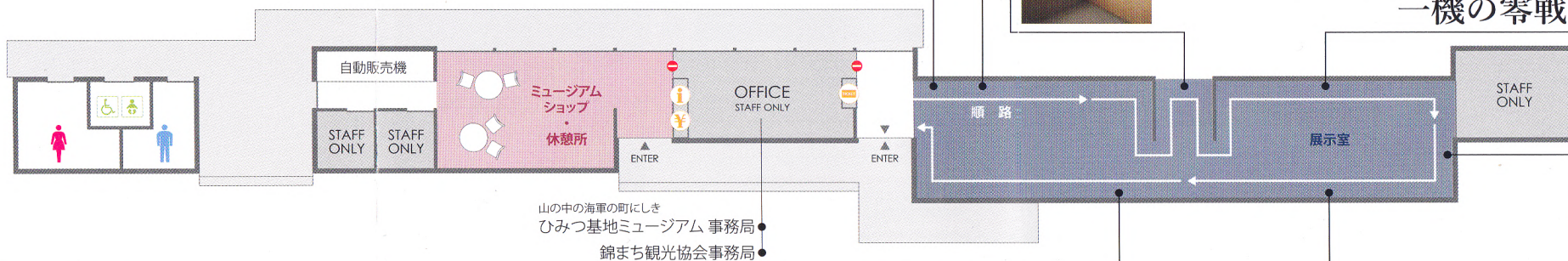
滑走路跡 展望スペース

滑走路の東端に建つミュージアムから、西に向かって伸びる滑走路跡を展望できるスペース。左右の壁には、昭和20年1月3日に滑走路上で行われた観兵式の写真を配し、当時、訓練で使われた赤とんぼの模型が頭上を飾ります。



戦後62年経って発見された、錦町の山中に散った零戦の破片の数々。それは、昭和20年6月14日に、地元住民が目撃した空中戦の証言を元に捜索した結果でした。人々の証言から浮かび上がった、零戦搭乗員のとった行動から滲む思いと、その結果は、命の尊さと戦争の理不尽さを雄弁に語ります。

錦の山中に散った一機の零戦



タッチパネル式モニター

語り継ぎたい「証言」と「記録」

現在確認されている地下施設の入出口は約100ヶ所に及びます。ですが、様々な理由から全ての地下施設に立ち入ることは難しいのが現状です。

ここでご覧いただける、ご案内のできない地下施設を含む360度のパノラマ画像は、戦跡の保存と活用を両立した新しい試みです。

また、人吉海軍航空基地の存在により、その影響を受けた立場の違う3名の方の証言VTRもご覧いただけます。様々な立場で感じた戦時中の思いと、現在に続く想い。どちらも忘れることなく語り継いでいきたいものです。

人としての「想い」が結んだ
戦後20年目の出来事

「終戦直後」の基地の全容と 今なお変わらぬ「現代」の基地跡



残された古写真の撮られた場所と共に、建設計画に基づいた基地の規模と主要道路の形や、基地周辺の集落の形などが、今なお変わらぬ形で存在することが2枚の航空写真から明らかになります。

また、今現在発見されている地上施設跡や地下施設の数々も現代の写真上で確認することができます。

日本でも有数の残存数をもつ人吉海軍航空基地跡の規模をお確かめください。



「赤とんぼ」は人吉海軍航空基地で頻繁にその姿を見られた機体として、地元住民にも馴染みのあった飛行機です。戦況によってオレンジから濃いグリーンへ塗り替えられたという元特攻隊員の証言通りの塗装が、展示の主輪と機体の部品からうかがえます。

これらのエピソードを踏まえ、当ミュージアムのロゴマークは、海軍を表すイカリと、主輪の裏の特徴的な形状のデザインとしました。



人吉海軍航空基地の象徴 「赤とんぼ」



写真で見る「戦後」と「今」

実物大 赤とんぼ